

サントリーフラワーズの取り組み。

「あしたの花にできることプロジェクト」の一環として東北各地で花苗の提供・ワークショップを行っています。



事業を通じた支援
01

2018年福島限定、「ザ・プレミアム・モルツ」オリジナルデザイン缶を制作。

福島オリジナルデザイン缶の制作費の一部を、福島県災害復興寄付金に贈呈しました。



事業を通じた支援
02

2018年・2019年「サントリー烏龍茶 サンドウィッчマン 東北愛ボトル」を発売。

限定ラベル1本につき2円をサンドウイッчマンがサポートする「東北魂義援金」へ寄付しました。



事業を通じた支援
03

サントリーサンバーズが宮城県仙台市でホームゲームを開催

サントリーバレーボール部「サントリーサンバーズ」は2019-2020年シーズンから宮城县仙台市をホームタウンとし、より一層、東北に寄り添った活動を行っていきます。



事業を通じた支援
04

地域のイベントに協力

「ツール・ド・東北」や「ふくしま駅伝」、「プロ野球公式戦」など東北地方で開催されているスポーツイベントにも積極的に協力・支援を行っています。



事業を通じた支援
05

社員ボランティアの実施

「気仙沼サンマフェスティバル」をはじめ、各地域で社員参加による復興ボランティア活動を行っています。



事業を通じた支援
06

サントリーグループの東日本大震災復興支援活動はWebサイトでもご覧いただけます

活動内容 | <https://www.suntory.co.jp/company/csr/support/>

活動動画 | <https://www.suntory.co.jp/company/csr/support/movie/>

[発行元] サントリーホールディングス株式会社 コーポレートサステナビリティ推進本部CSR推進部 [発行]2020年1月



サントリーグループの東日本大震災復興支援活動



漁業の復興支援



未来を担う子どもたちの支援



文化・芸術・スポーツを通じた支援



チャレンジド・スポーツ支援

suntory
東北サンさん
プロジェクト
since 2011

東日本大震災から8年が経過した今も、困難な状況に置かれている方が数多くいらっしゃいます。サントリーグループは、「太陽のようにあたたかな光が、被災地にさんさんとふりそそぎますように」という思いを込めて、2011年に「サントリー東北サンさんプロジェクト」を立ち上げ、4つの分野を中心に東日本大震災復興支援活動を行ってきました。私たちが大切にしているのは、現地に赴き、地域の方々と活動を続けていくこと。これからも岩手県・宮城県・福島県の皆さんに寄り添いながら、東北に笑顔と希望が増えていくような未来づくりのお手伝いができればと考えています。

これまでの歩み

※掲載されている内容は発行時点のものです。





子どもたちに寄り添う。



子どもたちの健やかな成長を応援するため、奨学金給付・NPO助成などの経済的支援と、学童保育・子どもセンターなど安心して遊び遊べる場所づくりを中心に、約28億円の規模で幅広い支援に取り組んでいます。

福島の子ども 遊び遊べる場所づくり支援

福島の子どもたちが安心して遊び遊べるように、学童保育施設建設を行い、サントリーグループ各社によるワークショップ開催、指導員研修、園外保育などの支援を展開しています。

学童保育
施設建設数
5棟

園外保育など
屋外活動参加者数
約8,800名



「石巻市子どもセンターらいつ」 「山田町ふれあいセンターはぴね」建設



年間利用者数
約30,000名
(石巻市子どもセンター)

宮城県石巻市と岩手県山田町で、子どもたちが企画・デザインした施設の建設を全額支援。建設後はサントリーグループ各社によるワークショップなどを開催しています。

*「福島の子ども遊び遊べる場所づくり支援」、「石巻市子どもセンターらいつ・山田町ふれあいセンターはぴね建設」、「福島子ども支援NPO助成」はセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの協同事業です。

東北の未来をつくる子どもたちや教育関係者の声 //

TOMODACHIサントリー音楽奨学金 第1期受給生 熊谷駿さん

音楽の力で地元・東北に貢献したいと考えていたのでバークレー音楽大学への進学と本奨学金の受給が決まった時は、嬉しい反面、背筋が伸びるような思いでした。JAZZの本場で学び、感動を与えるられる演奏家になりたいです。



建設支援した 学童保育クラブの児童

友達と遊ぶのが一番楽しいから、新しい学童で思いっきり遊べるのは嬉しいです。そして、広い学童にいると気持ちまで大きくなって、色々なことに挑戦したくなってきます。将来はサッカーの日本代表選手になりたいので、夢を叶えるために頑張ります。



山田町ふれあいセ ンターはぴね 澤木次博所長

当センター「はぴね」は、だれでも気軽に利用できる図書館機能を有した公共施設です。オープン後も、花植え教室やアイスクリームスクール、みんなのまちのコンサートなどの支援で、被災した町に希望を灯し続けていただいている。



「サントリー・SCJフクシマスマスマプロジェクト」 子ども支援NPO助成団体のスタッフ

当法人では「からだあそびの習慣化」を目指すため、遊びの質を高めるための人材育成や心のケアのための臨床心理士などによる相談事業に助成を活用しました。サントリーグループの支援によって、理想を一歩ずつ実現できています。



石巻市子どもセンターらいつ 進士知子さん

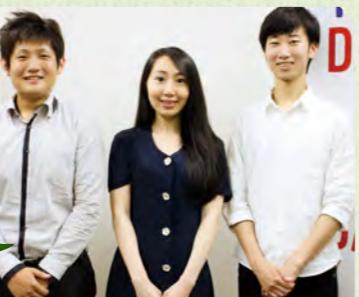
建設サポートだけではなく、毎年数回プログラムを開催していただいています。子どもたちのやりたいことや石巻ではあまり体験できないことを踏まえたサンタリーらしいプログラムで、子どもたちの興味が広がっています。



TOMODACHIサントリー音楽奨学金

米国大使館・米日カウンシル・ジャパンと協同で、米国の音楽大学に入学する被災地の学生を支援しています。

寄付額
約100万ドル



福島子ども支援NPO助成

避難生活が長期化している福島の子どもたちをきめ細かく支援しているNPO団体への助成を

助成団体数
57団体

2013年から3年間実施しました。

子どもたちへのワークショップ

サントリーグループのハーゲンダッツ・ジャパン(株)やサントリーフラワーズ(株)と協同し、それぞれの専門性を活かしたワークショップを行っています。





チャレンジド・
スポーツ支援

チャレンジド・スポーツに寄り添う。

2014年からは、チャレンジド・スポーツ(障がい者スポーツ)の育成・普及をサポートしています。総額10億円の規模で、アスリート個人・団体への奨励金、普及のための体験教室実施や環境整備などに幅広く取り組んでいます。



チャレンジド・アスリート奨励金



個人部門
のべ294名

団体部門
のべ129団体

個人・団体への助成を通じ、チャレンジド・スポーツの振興や世界レベルの選手の育成・強化を支援しています。

※零真是陸上競技・砲丸投げの大井利江選手(岩手県)



参加者数
約1,000名

「アスリート・ビギット」の実施

被災地の小学校・中学校での車いすバスケットボール出張授業、特別支援学校でのボッチャ教室を実施しています。



実施回数
47回
参加者数
4,646名

チャレンジを続ける子どもやアスリートたちの声//

チャレンジド・スポーツ 岩手県保健福祉部 障がい福祉課ご担当者

寄贈いただいた競技用具を活用し、さらなる競技力アップを目指していきます。また、アスリートビギットにより、障がいに対する県民の関心が高まるものと期待しています。



「チャレンジド・スポーツ アスリート・ビギット」に 参加した児童

選手たちの気迫やスピードにびっくりして、障がいがあっても「やりたいことは何でも出来る」のだと思いました。ぼくもいろんなことにチャレンジしていきたいです。



チャレンジド・ スポーツ育成サポート

STT用
卓球台 5台

施設改修
3ヶ所

競技用
車いす 35台



車いす
スポーツ導入教室
13回開催

チャレンジド・スポーツの普及および育成のため、公共施設の改修や競技用車いすなどの競技用具を寄贈しています。

東北の車いすバスケットボールチームを応援

東北の4つのチーム
「宮城MAX」、「TEAM EARTH」、「ラッセル 岩手」、「SCRATCH」の活動を応援しています。



チャレンジド・スポーツ支援自動販売機の展開



2018年7月から車いすバスケットボール日本代表のサポートを目的に、売り上げの一部が強化費として還元される自動販売機の取り扱いを開始。設置台数を増やしながら、応援の輪を広げています。

車いすバスケットボール 「宮城MAX」所属 藤井新悟選手

奨励金を還元費にすることで、モチベーション向上に繋がっています。今後は、宮城県が日本一強いチームを輩出したり、世界に挑戦していることをもっと知ってもらいたいです。



一般社団法人 岩手県 障がい者スポーツ協会 三浦拓朗事務局長

競技性の高いアスリートだけではなく、スポーツの普及・導入事業等にも支援をいただいている。今ではスポーツを通じた地域コミュニティ形成にまで広がりを見せています。





文化・芸術・スポーツ
を通じた支援

文化・芸術・スポーツを通じて寄り添う。

笑顔と元気をお届けできればという思いから、サントリー芸術財団・
サントリー文化財団などを通じた文化・芸術支援や、バレー・ボールチーム・
ラグビーチームなどによるスポーツ支援にグループをあげて取り組んでいます。



サントリー&日本工芸会 「おもしろびじゅつ教室in東北」

重要無形文化財保持者(人間国宝)をはじめとした伝統工芸作家による出張授業を実施しました。



参加者数
約1,200名

スポーツ教室開催、 チャリティ金の活用

サントリースポーツチームによるバレー・ボール教室やラグビー教室開催、「サントリードリームマッチ(プロ野球OB戦)」、「サントリーレディスオープン(女子プロゴルフ)」でのチャリティ金を活用し、キャッチボール教室の開催や消防車の寄付を行っています。



参加者数
約6,200名

みちのくウインド・オーケストラ

被災地の中高生が国内で活躍する著名な音楽家からレクチャーを受け、集大成としてサントリーホールでコンサートを開催しました。



参加者数
約350名

サントリー&仙台フィル みんなのまちのコンサート



公演数
33公演
来場者数
約3,500名

仙台フィルハーモニー管弦楽団と協同し、東北の被災地でコンサートを行っています。

ウィーン・フィル&サントリー 音楽復興基金

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とともに、音楽活動への助成や被災地でのコンサートを行っています。



サントリー美術館 出張展覧会



来場者数
約14,000名

復興祈念賞受賞
活動数
128活動

＼新しい文化にふれたよろこびの声//

「こどもたちのための コンサート」の ご来場者

初めてのクラシックの演奏会は、草原で光に包まれている感じがしました。震災で多くを失いましたが、新しい体験をさせていただき感謝です。



「おもしろびじゅつ教室 in東北」を 受講した児童

普段できないいろいろ体験、デザイン授業などとても楽しかったです。一生に一度の大切な日になりました。ありがとうございます。



「みちのくウインド・ オーケストラ」に 参加した生徒

相双地区が一丸となって、サントリーホールで福島の元気を伝える機会をいただき嬉しかったです。長く盛大な拍手はとても感動的でした。



仙台フィルハーモニー 管弦楽団 磯貝純一事業部長

震災以降、東北に音楽を届けている私たちにとって、沿岸被災地域でコンサートが継続的に実現できることは、大変ありがたく、感謝しています。



*掲載されている内容は発行時点のものです。



漁業に寄り添う。



被災地の主要産業である漁業の早期復興のため、岩手県・宮城県に合計55億円を寄付し、漁船取得や漁具・漁業関連施設の復旧に活用いただいている。また、被災した水産高校の生徒への奨学金給付(P4参照)も行っています。

漁業復興のための各県への寄付金。

県を通じて漁業の早期復興を支援するため、宮城県に30億円、岩手県に25億円の寄付金を贈呈させていただきました。



*2012年に宮城県庁で行われた贈呈式の様子。



*2013年に岩手県庁で行われた贈呈式の様子。

漁船取得支援
約10,000隻

漁船取得支援

漁業者の負担を軽減するため、宮城県・岩手県を通じて、漁船の取得費用の一部を負担し、遠洋マグロ用・イカ釣り用などの大型漁船から小型漁船まで約1万隻の復旧を支援しました。

漁具・漁業支援

宮城県・岩手県への漁業復興のための寄付金は、定置網・養殖施設などの復旧にも活用していただきました。



漁具支援数
約1,100件

定置網支援数
約400件



宮城県漁業協同組合へ帽子の寄贈を行いました。

たくましく前進する漁業関係者の声//

宮城県農林水産部 水産復興課ご担当者

サントリーグループのご支援によって、本県漁業者は大きく勇気づけられ、復興の励ましとなっています。また、「水産高校生への奨学金支援」など漁業生産現場にとどまらず、後継者対策や消費・流通に至る漁業全般の支援に心より感謝しています。



岩手県 越喜来漁業協同組合の組合員

震災が起きたとき、沖で過ごした3日間は今でも忘ることはできません。何とか2011年のうちに再操業にこぎ着けましたが、2014年、ようやく失った船が支援のおかげで全て復旧しました。おかげさまで息子とともに毎日元気に漁に出ることができます。美味しい魚をたくさん獲ってお客様にお届けしていきたいです。



みやぎ定置漁業生産組合 組合長

漁業を営む者にとって漁船・網・漁具は手足であり、なくては仕事になりません。このたびは国や県の助成に加えてサントリーグループの支援があったため、私たちの負担が軽減されました。漁師としてはたくさん魚を獲ることで恩返しをしていきたいと思います。



*掲載されている内容は発行時点のものです。